

がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)の平成27年集計結果

1 全国及び本県の状況

平成27年のがんの75歳未満年齢調整死亡率(以下「死亡率」という。)について、国立がん研究センターが算出し平成28年12月21日に公表した。

(1) 全国の状況

国のがん対策推進基本計画においては、平成17年からの10年間でがんの死亡率を20%減少させることを目標としていたが、全国の平成27年のがんの死亡率は78.0人で平成17年からの減少率は15.6%となり、目標を達成できなかった。

(2) 本県の状況

本県の第2次がん対策推進計画においては、平成28年にがんの死亡率を72.5人(H23:80.5人から5年間で10%減少)にすることを目標としていたが、本県の平成27年のがんの死亡率は72.0人で、県計画の目標を1年早く達成するとともに、平成17年からの減少率は21.4%となり、国計画の目標である平成17年から10年間でがんの死亡率を20%減少させることも達成した。

(単位:人)

区分	平成7年	平成17年	平成27年	目標	減少率	
					(H7→H27;20年)	(H17→H27;10年)
全国	108.4	92.4	78.0	73.9	28.1%	15.6%
広島県	111.6	91.6	72.0	72.5	35.5%	21.4%

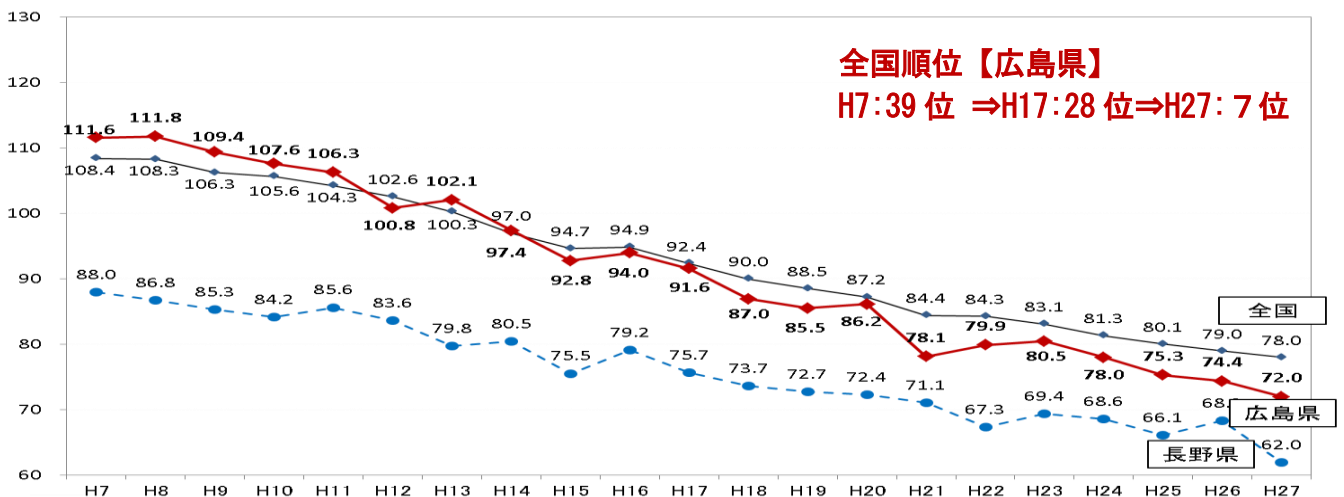
※ 全国の目標年次は平成27年、広島県の目標年次は平成28年

2 減少率全国上位5県の状況

平成7年から平成27年における減少率が高い全国上位5県は、広島県、奈良県、佐賀県、兵庫県、滋賀県であり、広島県の減少率は35.5%と全国で最も高い。

(単位:人)

順位	都道府県名	平成7年	平成17年	平成27年	減少率	
					(H7→H27;20年)	(H17→H27;10年)
1	広島県	111.6	91.6	72.0	35.5%	21.4%
2	奈良県	110.3	94.3	72.3	34.5%	23.3%
3	佐賀県	120.4	102.6	79.2	34.2%	22.8%
4	兵庫県	117.2	97.2	77.3	34.0%	20.4%
5	滋賀県	103.7	86.6	69.4	33.1%	19.8%



※ 平成27年のがんの死亡率の最も低い県が長野県である。

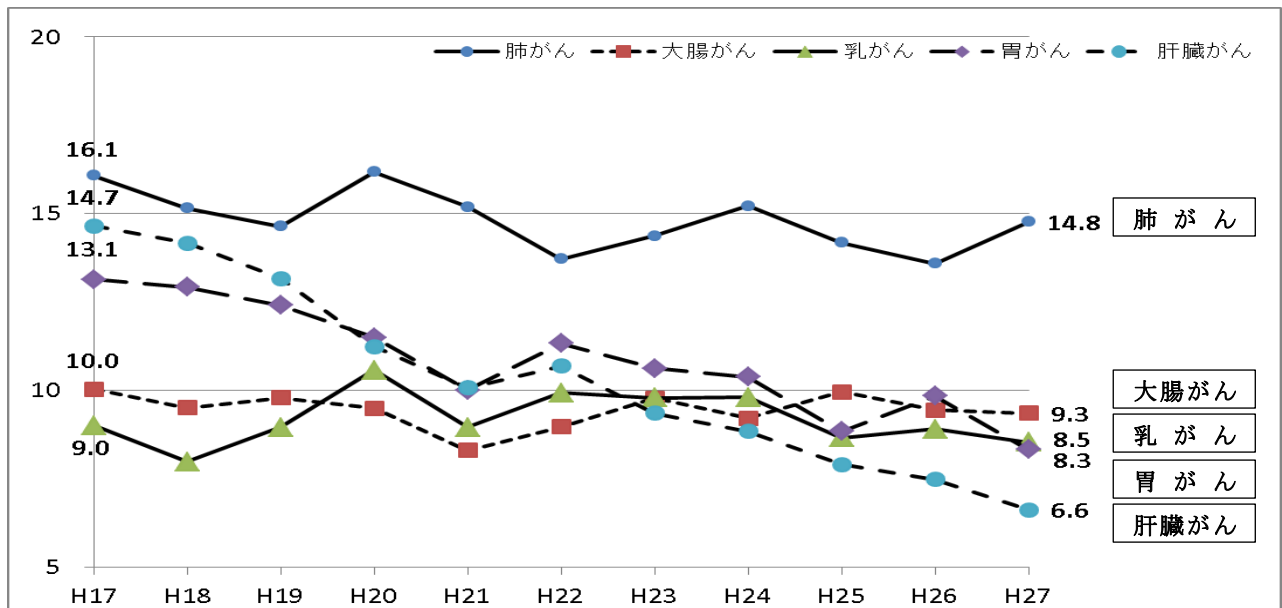
【参考】

全国及び本県の主な部位別の状況（平成27年のがんの死亡率）

（単位：人）

区 分	胃がん	大腸がん	肺がん	肝臓がん	乳がん
全 国 (H17→H27 増減率)	9.1 (▲33.2%)	10.5 (▲6.5%)	14.5 (▲7.3%)	5.4 (▲48.8%)	10.7 (2.7%)
広島県 (H17→H27 増減率)	8.3 (▲36.7%)	9.3 (▲6.9%)	14.8 (▲8.1%)	6.6 (▲54.9%)	8.5 (▲5.3%)

広島県のがんの死亡率の部位別の推移（H17～H27）



年齢調整死亡率とは

年齢構成が基準人口と同じだったら実現されたであろう死亡率のこと。がんは高齢になるほど罹患や死亡が多くなり、年齢構成が異なる集団でがんの死亡率を比較するためには、年齢構成の影響を補正する必要がある。その方法の一つとして用いられるもので、年齢階級別に死亡率を計算し、基準とする人口集団の重みをかけあわせて算出する。一般に国内での統計においては、基準人口は昭和60(1985)年日本人モデル人口が用いられる。通常、人口10万人当たりの数値で表す。

$$\text{年齢調整死亡率} = \left\{ \left(\text{平成〇年 年齢5歳階級別粗死亡率} \right) \times \left(\text{基準人口の当該年齢の人口} \right) \text{の各年齢階級の総和} \right\} / \text{基準人口総数}$$